

佳作

未来の私へ

岩手県大船渡市立東朋中学校

1年 水野 椎奈

私は今、中学校のテニスコートでびっしょりと汗をかきながら、無我夢中でボールを追っている。

私がテニスをはじめたのは、小学3年生のときである。そして今も、ソフトテニス部に所属している。小学校のときを振り返ってみると、ペアの子と喧嘩してぶつかり合った思い出、県選抜に入れてうれしかった思い出。考えるときりがないくらい思い出がいっぱいだ。しかし、特に印象に残っているのは、やはり、勝負に負けて悔しくて暴れるくらい泣いたことである。

あと一步、あと一步で勝てた、ファイナルゲームまで続いた試合。応援してくれている人が視界に入るたびに、プレッシャーと勝ちたい気持ちでいっぱいになる。取らなきゃ。あのコースに打ちたい……そんなことを考えているうちに、相手のマッチポイントが訪れる。私の頭の中は、一瞬で焦りに変わる。それと同時に、相手側の応援しか耳に入らなくなった。そこから、何とか2ポイント連取したものの、こちらのミスで試合終了。相手側の応援の歓声が体育館中に響きわたり、静まった後、自分たち側の応援をしてくれた人たちが、

「おつかれ！」

「すごかったよ！」

など、慰めの言葉をかけてくれる。けれども、私は、早くどこかで一人になりたかった。一人で、わんわん泣きたかった。私は、ただただ無心で片付けや帰る準備をした。

帰りの車に乗った後は、私にとって地獄だった。母に、

「最後の試合、相手がマッチポイントになったとき、プレーに集中してなかったでしょ。」

と言われ、父には、

「いつも努力しないから、この結果なんだ。」

と言われた。どちらにも凶星をつかれた私は何も言い返さなかった。いや、言い返せなかった。「何も知らないくせに」とか、「もうテニスやだ」とか、言いたいことはたくさんあったのに言えなかった。けれども「努力」という言葉の意味が初めてわかった瞬間だった。

それから、負けたショックを心に残したまま「努力」について考えた。数日間、ずっと一人で考え続けた。私がたどり着いた答えは「とにかく、やってみ

よう」だった。努力して勝てたらうれしい。とか、親にほめてもらえるかもしれない。という単純な気持ちが生んだ、答えだった。

「努力してみよう」と決めた私は、素振りや自主練習など、やれることをやるだけやるようになった。

そして、大会が始まった。予選を1位で抜け、決勝トーナメントへと進んだ。負けそうな試合も、反省を生かして集中してプレーした。結果は、ベスト8。もう少し行けたかもという悔しさもあるが、それ以上に言葉では表せないほどの達成感と喜びで胸がいっぱいになった。努力して、良かった。本当に、良かった。あの単純だけど真っ直ぐな気持ちを、大事にして良かった。心から、そう思った。

私には、人と関わる仕事に就きたいという夢がある。例えば、保育士や教師などの仕事だ。それは、努力の大切さや基礎的な知識・技能、将来生きていく上で大切なことを教えていきたいと思ったからだ。そして、自分も子どもたちと共に学んでいきたい。けれども、時折、これが本当に自分がやりたいことなのか、本当に興味をもってやりたいことなのかわからなくなる。だから私は、一つのことにとらわれるのではなく、好きなことも苦手なことも挑戦して、視野を広げていきたい。そして、自分が本当にやりたいことを探していきたい。やりたいことが見つかったら、そのやりたいことに向かって全力で頑張りたい。それはいつか本当の「夢」になることだろう。

今ある将来の夢は、もしかしたら未来の私が向かっている夢ではないかもしれない。けれども、今の夢を大事にしつつ、他のことにも挑戦して、経験を積んでいきたい。そう、私は考えている。

未来の自分へ。

元気ですか。

私は、今何をしていますか。

1分1秒を大切に過ごせていますか。

私は、あなたが今何をされていて何を考えているか、全くわかりません。だけど、あなたにとって良い人生を歩んできていると、願っています。これから、うれしいことも悲しいことも両方あると思うけれど、きっとあなたなら頑張っていける。あなたなら、できる！ 頑張れ！ 自分！